

2007年10月24日

企業会計基準委員会と米国財務会計基準審議会が グローバル・コンバージェンスを議論する会合を開催

企業会計基準委員会
米国財務会計基準審議会

企業会計基準委員会(ASBJ)と米国財務会計基準審議会(FASB)の代表者は、今般、ノーウオークで会合を開催いたしました。この会合は、ASBJの西川委員長、FASBのハーズ議長主導の下、会計基準のグローバル・コンバージェンスを目指した相互の対話を促進するためにASBJとFASBが定期的に行っているもので、第四回目となりました。

コンバージェンスは、国内及び海外両方の利用に資するような高品質かつ共通の会計基準の開発を目指すものであり、ASBJ及びFASBにとって、重要な取組事項となっています。両者は、国際会計基準審議会(IASB)と連携を図ることにより、世界の主要なビジネスや資本市場における共通のグローバルな財務報告は、信頼性、比較可能性、概念的十分性を有した有効な財務情報を提供する上での決定的な要素になると考えています。

今回の会合の中で、ASBJからは、2007年8月8日にASBJとIASBから公表された「会計基準のコンバージェンスの加速化に向けた取組みへの合意」に基づいて、2008年までに日本基準と国際財務報告基準(IFRS)との間の重要な差異を解消し、残りの差異については2011年6月30日までに解消させることによりIFRSとコンバージェンスさせるというコミットメントを達成するための方策について説明を行いました。FASBからは、FASBとIASBとの間で合意された2006年の覚書(Memorandum of Understanding)に従い、FASBが米国基準とIFRSとの間のコンバージェンスを達成すべくIASBと行ってきた取組みに関する最近の開発状況について説明が行われました。さらに、IFRSを用いる外国登録企業に対して現在要請している調整表の廃止及び米国におけるIFRS適用の可能性に関する米国SECによる最近の公表について議論を行いました。

さらに、両者は以下のプロジェクトの状況について意見交換を行いました。

- 概念フレームワーク
- 収益認識
- 負債と資本の区分
- 連結の範囲(特別目的事業体を含む)

両者は、このような議論により相互理解を深めることは、ASBJ及びFASBにおける今後の審議やIASBとそれぞれが進めているコンバージェンスの作業に資すると考えられることから、引き続き、中長期的課題や現在の懸案事項について意見交換していくことといたしました。

西川郁生 ASBJ 委員長は次のように述べています。

「我々がFASBのボードメンバー及びスタッフとより緊密なコミュニケーションを図ることは、ASBJのコンバージェンスの作業に非常に有益であると同時に、グローバル・コンバージェンスの促進にも貢献するものと信じております。」

ロバート・ハーズ FASB 議長は次のように述べています。

「このような年二回の会合においてそれぞれのコンバージェンスに対する取組みについて共通の関心事項を話し合うことは、今後も両者にとって、非常に重要でかつ有意義な方法と考えております。」

なお、次回の会合は2008年5月に東京で開催する予定です。

企業会計基準委員会(ASBJ)について

ASBJは、2001年7月に民間部門の機関として設立された。ASBJが開発した会計基準は、一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として、金融庁により認められることとなる。ASBJは、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJは、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、世界的な会計基準の開発に貢献している。ASBJに関する詳細な情報は、ホームページ <http://www.asb.or.jp/> をご参照いただきたい。

米国財務会計基準審議会(FASB)について

FASBは、1973年以来米国における財務会計及び財務報告基準を設定するための民間部門の機関として指定されている。それらの基準は、財務報告書の作成を規定し、証券取引委員会及び米国公認会計士協会により権威のあるものとして正式に認識されている。投資家、債権者、監査人及びその他の人々は、信頼性、透明性、比較可能性のある財務情報を必要とするため、このような基準は、経済の効率的機能にとって不可欠である。FASBに関する詳細な情報は、ホームページ <http://www.fasb.org/> をご参照いただきたい。

以 上